別記第七十四号の二様式（第五十五条関係）

日本国政府法務省

難　民　・　補　完　的　保　護　対　象　者　認　定　申　請　書（再申請用）

法　務　大　臣　　殿

私は、

□　①難民認定申請（出入国管理及び難民認定法第61条の２第１項の申請）

□　②補完的保護対象者認定申請（出入国管理及び難民認定法第61条の２第２項の申請）

を行うものとして、本申請書を提出します。
※上記のうち、どちらか一つにチェックしてください。

①の申請をした場合には、補完的保護対象者の該当性についても判断されます。②の申請をした場合には、補完的保護対象者の該当性のみを判断します。

氏　名			男 女	別名・通称名等	
生年月日	（年）	（月）	（日）	現在の職業	
国籍・地域（又は常居所を有していた国名）			出生地		
住居地			方　　電話番号　　携帯電話番号		

	番　号	発行・更新年月日	有効期限	発行機関	発行・更新理由
旅　券					
在留カード／特別永住者証明書					

本邦上陸年月日	上陸港	現に有する在留資格（又は許可の種類）	在留期間満了日（又は許可の期限）

官　用　欄

（注）用紙の大きさは、日本産業規格Ａ列４番とする。

【注意事項】

以下の注意事項をよく読んだ上で質問に答えてください。
読んだ注意事項には、チェック☑をしてください。

□　この申請書には、あなたが主張したい事情を全て書いてください。

□　回答に当たっては、該当する欄にチェック☑をし、記入部分には、具体的かつ詳細に書いてください。（枠内に書けない場合は、別紙を提出してください。）

□　この申請書に嘘を記載したり、嘘の資料を提出した場合は、審査上不利益を被ることがあります。

1　前回の難民・補完的保護対象者認定申請後、国籍、家族構成、居住歴、学歴、職歴、本邦出入国歴、海外渡航歴及び宗教に変更はありますか。

□　いいえ

□　はい

→変更事項はどれですか。

□　国籍　　□　家族構成　　□　居住歴　　□　学歴

□　職歴　　□　本邦出入国歴　　□　海外渡航歴　　□　宗教（宗派）

→変更内容を具体的に書いてください。

2　前回は、どのような迫害事情を主張しましたか。具体的に書いてください。

3　今回は、新たに主張する迫害事情がありますか。

□　ない

→「ない」と答えた場合、４の質問に答えた後、６以降の質問に答えてください。

□　ある

→「ある」と答えた場合、４以降の質問に答えてください。

4　迫害を受けるおそれ以外の理由で、日本での滞在が必要な理由がありますか。

□　ない

□　ある

→「ある」と答えた場合、具体的に答えてください。

5　3の質問で「ある」と答えた場合、「新たな迫害事情」について、下記（1）から（6）までの質問に答えてください。

（1）「新たな迫害事情」が発生した時期は、いつですか。算用数字により西暦で書いてください。

（2）「新たな迫害事情」をあなたが知った時期は、いつですか。算用数字により西暦で書いてください。

（3）「新たな迫害事情」が発生した場所は、どこですか。

（4）「新たな迫害事情」を前回の手続で主張できなかったのはなぜですか。

（5）「新たな迫害事情」の内容を具体的に答えてください。

ア　迫害を受けたのは誰ですか。

□　あなた自身

□　あなたの家族・親族

□　上記以外（具体的に書いてください。）

イ　誰から迫害を受けましたか。

ウ　どのような迫害を受けたのですか。

エ　迫害を受けたのは、なぜですか。

オ　迫害と関係する本国情勢に大きな変化があった場合、それを具体的に書いてください。

（6）あなたが本国に帰国するとすれば、いかなる事態が生じますか。

ア　誰から迫害を受けるおそれがありますか。

イ　いかなる事態が生じますか。

6　今回、新たに提出する資料はありますか。

□　ない

□　ある

→「ある」と答えた場合、その資料の内容を具体的に書いてください。

7　現在の健康状態はどうですか。

□　異常なし

□　異常あり

→「異常あり」と答えた場合、具体的に書いてください。

8　難民調査官のインタビューを希望しますか。

□　希望する

□　希望しない

9　難民調査官がインタビューする場合、通訳は必要ですか。

□　いいえ

□　はい

→「はい」と答えた場合、何語を希望しますか。（　　）語

その他通訳に関して希望する事項があれば、理由とともに書いてください。（例：通訳人の性別、国籍）

10　難民調査官がインタビューする場合に、通訳に関すること以外で配慮してほしいことがあれば、理由とともに記入してください。（例:難民調査官の性別）

以上の記載内容は、事実と相違ありません。

申請者（代理人）の署名 _____　　年　　月　　日